

滋賀の文化情報誌

デュエット

Duet

2024 秋 vol.150

特集

北村季吟—芭蕉の師・生誕 400年—

わたしの出版体験

『聴導犬ポッキー いつもいっしょ』

聴導犬のこと、そしてポッキーのお仕事を絵本に!

INFORMATION STATION 催し案内 2024 秋

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

特集

北村季吟

—芭蕉の師・生誕400年—

北村季吟の句「祇王井にとけてや民もやすこほり」を刻んだ句碑（野洲市北）

今年(2024年)は、松尾芭蕉の師であり、『源氏物語』など多くの古典の注釈書を著し、江戸幕府に召されて初代歌学方を務めた北村季吟の生誕400年にあたります。10月12日から11月24日まで企画展「北村季吟—芭蕉の師・生誕400年記念—」を開催する野洲市歴史民俗博物館で、その生涯をお聞きました。



野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）

住 所 野洲市辻町57-1

連絡先 TEL 077 (587) 4410 FAX 077 (587) 4413

休 館 日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土・日、祝日の場合は開館）、年末年始、臨時休館

入 館 料 一般300円、高大生150円、小中生100円

駐 車 場 50台

アクセス JR 琵琶湖線「野洲駅」南口から近江鉄道バス。「村田製作所」「三井アウトレットパーク」行きで「辻町」下車徒歩5分

野洲市
歴史民俗博物館

取材／編集部 写真／辻村耕司



『源氏物語』が1000年以上の長きにわたって
読み継がれるきっかけをつくった人です。

野洲市歴史民俗博物館学芸員 齊藤慶一さん

室町時代から文芸が盛んだった「江辺荘」

野洲市歴史民俗博物館は、北村季吟の故郷であることもあり、関係史料の所蔵館としては全国有数だそうですね。

齊藤 そうだと思っています。野洲町の時代から町で購入してきた資料、それから昭和31年に祇王小学校の中に仮設された「季吟文庫」へ地元の季吟顕彰活動に取り組まれている方々が収集された資料、季吟ゆかりの京都の新玉津嶋神社の寄託資料、それから天理大学附属天理図書館（奈良県天理市）の宮川真弥さんという研究員の方が、ゆかりの地だということで資料をたくさん寄託してくださるんです。

取材前の調べ物でも、宮川さんという方の研究論文とかが出てきました。

齊藤 学生時代から野洲市にも調査にいらしていたそうです。お勤めになった天理図書館は俳諧関係の資料をたくさん所蔵なさっているので、今年の10月23日から12月2日にかけて奈良県の天理市にある天理参考館で「芭蕉の根源——北村季吟 生誕四百年によせて」という展示を、天理図書館主催で開催されます。

以上の四つが柱になって、全国的にも有数のコレクションになっています。

北村季吟の出身地は、野洲市の北という地区にあたるわけですね。

齊藤 これは地元の人にはなかなか言いづらい話なのですが、「出身地」という表現はせず、「故郷としている」という言い方をするようにしています。

北村家は近江国野洲郡北村を本国とする医者の家系ですが、季吟は京都で出生したと記録にはあります。

ただ、季吟自身が近江国野洲郡を、ふるさととしてとても大事にしていたのは間違いないですね。「祇王井にとけてや民もやすこほり」という代表的な句を収めた『続山井』には「江州野洲郡 永原といふ所にて興行に」と添え書きがあり、北の南隣にある永原で催された俳諧興行にも参加していました。

この北と永原に中北を加えた3か村は

※1 俳諧 室町時代末期に連歌の余興として作られた滑稽味を主とする連歌。江戸時代には独自の文芸となり、松尾芭蕉以後は発句（五・七・五）が中心となる。明治以降の俳句（五・七・五）が中心となる。明治以降の俳句（五・七・五）が中心となる。

※2 祇王井 野洲市中央部を南北に流れる祇王井川のこと。平安時代、白拍子となった祇王が平清盛に故郷の田地に水路を掘ってほしいと願い出て完成した川と伝わる。

※3 連歌 和歌の上の句（五・七・五）と下の句（七・七）を一人で、もしくは数人から十数人で交互に詠み連ねる詩歌の形態の一つ。室町時代に最盛期を迎えた。

※4 宗祇（1421～1502） 室町時代後期の連歌師。姓は「飯尾」と伝わるが定かでない、出生地も紀伊と近江の2説がある。

「江辺荘」と呼ばれ、中世においては荘園だった地域です。いまも「辺」の字が「部」になった「江部」という地名を、永原の中の信号やバス停に見ることが出来ます。その江辺荘の産土神だった菅原神社（菅原天神）は、室町時代から文芸が盛んで、明応5年（1496）のものだと推定される「永原千句」という連歌の記録が地元に残っており、神社の所蔵となっています。

連歌は、俳諧の基になった文学で、座を組んで、一人が詠んで、それを別の人が受けてというのを繰り返していきます。「永原千句」には、当時の代表的な連歌師だった宗祇とその門人の宗哲とともに、永原氏や菅原神社の神主らも参加していました。連歌が盛んになると、社寺の祭礼などの人がたくさん集まる場所、その興行が行われるようになります。

室町時代から、地域的に文芸が盛んだったんですね。

齊藤 そうです。一種の文芸サロンがあったところ、永原氏は近江守護・六角氏の重臣でしたが、永禄11年（1568）に近江へ侵攻してきた織田信長によって、六角氏とともに没落します。その代わりに永

北村季吟



↑館内常設の「北村季吟」パネル前にて齊藤慶一さん

原での連歌興行を引き継いだのが、北村家でした。

季吟の祖父が宗龍、その長男の宗与、次男で季吟の父にあたる宗円も、それぞれ連歌をたしなんでいたんです。宗龍は、連歌師、里村紹巴の門人でした。

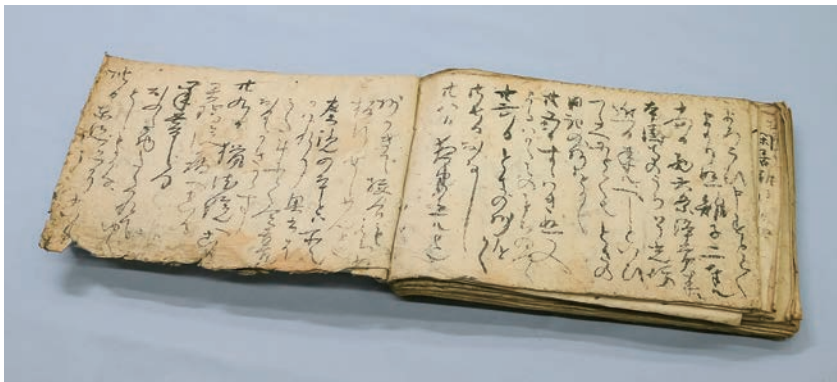
北村家の人びとは医者を生業としつつ、文学をたしなんでいたのですね。

齊藤 宗龍は、医師の方も当時の第一人者、曲直瀬道三に学んだとされています。当時の医者のたしなみとして、漢文学を知っておかなければならないという面もあったのだでしょう。そうした環境も影響して、季吟は若くして俳諧を勉強するようになり、16歳のときに安原貞室に入門して、22歳で松永貞徳という当時の俳諧の中心人物にあたる人の弟子になりました。門人の中でも優れた者として「貞門七俳仙」と呼ばれた7人にも数えられています。

俳諧や和歌を詠むにあたっても、その基礎として古典文学を学ぶことが欠かせませんでした。明暦2年（1656）33歳で俳諧の宗匠（師匠）として独立しましたが、その前の承応2年（1653）に初の古典の注釈書である『大和物語抄』を刊行します。当館所蔵の『北村季吟日記』は、寛文元年（1661）の7月から12月までの日記で、38歳のころにあたりますが、『土左日記抄』という『土佐日記』の注釈書を書き終えたことが記録されています。

そして、芭蕉と出会うのがいつごろになるのでしょうか。

齊藤 まず、芭蕉が仕えていた主君の藤堂良忠、この人は蟬吟という号の方が有名ですね。藤堂藩の侍大将の息子だったのですが、俳諧好きで季吟に学んでいました。主



北村季吟日記 新玉津嶋神社蔵（野洲市歴史民俗博物館寄託）
写真のページに『土左日記抄』に関する記述がある。

——そんな若い頃の日記も残っているんですか。筆まめですね。

齊藤 やつぱり日記を書くというのは、当時の教養人のたしなみだったのだでしょう。紙も貴重品の時代ですから、この日記は自分宛てに届いた書状の裏に書かれています。

松尾芭蕉に秘伝の俳諧伝書の書写を許す

人にならって松尾宗房（芭蕉の本名）も俳諧を学ぶようになり、主人ともども季吟の教えを受けたと考えられます。寛文7年（1667）、季吟の監修で、長男・湖春が編集した俳諧撰集『続山井』には、先ほどの季吟の「祇王井に……」の句などとも

※5 里村紹巴（1525ころ〜1602）室町時代末期の連歌師。大和の人。当時の連歌の第一人者として織田信長・豊臣秀吉らとも交流があった。

※6 松永貞徳（1571〜1653）江戸時代初期の俳人・歌人・歌学者。京都の人。和歌を細川幽斎、連歌を里村紹巴に学ぶ。貞門俳諧の祖。

に、宗房の名で「花の顔に晴うてしてや臘月」という句など、24歳だった若き日の芭蕉の作品が収録されています。

なお、この前年の寛文6年（1666）に蟬吟が25歳の若さで亡くなっています。芭蕉は主人につき合っていたというのとは関係なく、俳諧を続けていくんですね。

以前の特別展の図録『北村季吟——俳諧・和歌・古典の師——』を拝見しながら、お話を聞きしているわけですが、『続山井』の説明にある、「収録されている作者967人、48か国、句数5035」というのはすごいですね。俳諧が大ブームだったとわかります。

齊藤 そういった俳諧の世界において、当時43歳ぐらいの季吟はすでに第一人者として認識されていました。そんな季吟から見ても芭蕉は見どころがある人物だったのだでしょう。延宝2年（1674）に秘伝とされる俳諧伝書『埋木』を書き写すことを許しました。芭蕉が31歳の時です。

また、芭蕉に『埋木』を伝授した延宝2年（1674）に、季吟はその前年に完成させた『源氏物語湖月抄』を第4代将軍徳川家綱に献上しました。俳諧の宗匠として息子の湖春とともに興行を各地で行いながら、古典の研究と注釈書の執筆にも非常に力を入れていて、その成果が認められ、將軍に献上するまでに至ったわけです。この献上は、当時、京都山科にある毘沙門堂門



北村季吟画像 季吟文庫蔵・江戸時代

主だった公海^{こうかい}の仲介^{ちゆうかい}によるとされます。

季吟は、東本願寺第13世宣如^{せんじゆ}の子で長浜別院・大通寺の初代住職を務めた宣澄^{せんじゆ}（暫^{すい}醉⁸）より古今伝授を受けるなど、当時の教養人である高僧とも交流を重ねていました。もう少し後年の天和2年（1682）のことになりますが、伴庄右衛門という豪商に招かれて近江八幡を訪れ、八幡山の山

頂からの眺めを詠んだ「和歌八幡十景」という作品も近江八幡市に伝わっています。

「あふみちはむら山あれと其名さへみかみのたけのしもにたつらし」という、野洲の三上山を讃えた歌もふくまれています。

近江商人の中にも文芸に親しむ人がいて、季吟と交流を持っていたわけですね。

齊藤 この八幡を訪れた年の前年の天和元年（1681）には、伊勢外宮に奉納した『伊勢物語拾穂抄』と『枕草子春曙抄』に対する受領書が季吟と息子の湖春あてに届いています。

書いた本を神社に奉納するというのは、今ではない感覚ですね。

齊藤 神仏というものが、現在のわれわれが思っているよりも、もっと尊いもので、それに捧げることに価値があったのでしょう。季吟の行為は、歌人や俳諧師などによる前例があつたのだと思います。全国から大量の奉納品があつたと思われる。伊勢神宮に季吟が奉納した作品が残っている

第4代将軍

徳川家綱

仲介 公海

『源氏物語湖月抄』

第5代将軍

徳川綱吉

正室 定子

『万葉拾穂抄』

歌学方就任

北村氏
宗龍

連歌師

里村紹巴

宗円

宗与

宗雪

① 季吟

湖春

② 湖元

③ 春水

④ 季春

⑤ 季文

⑥ 湖南

季元

歌人・俳諧師
松永貞徳

藤堂藩

藤堂良忠（蟬吟）

俳人

松尾宗房（桃青・芭蕉）

大通寺初代住職

宣澄（暫醉）

八幡商人

伴庄右衛門（是閑）

— 師・門人関係
— 主・家臣関係
→ 献上
丸数字は歌学方代数

北村季吟の関係図

※7 公海（1608〜1695）天台宗の僧。父は公家の花山院忠長、母は本願寺教如の娘。師の天海の跡を継いで大僧となり、のち山科の毘沙門堂を復興。

※8 宣澄（1626〜1681）浄土真宗の僧。靈瑞院従高。俳号が暫醉。大通寺初代住職となるが、ほとんど京都に在住し、季吟との往来は頻繁をきわめた。

※9 古今伝授 『古今和歌集』の難解な語の解釈などを秘伝として師から弟子に伝授すること。東常縁から宗祇への伝授がはじまり、季吟との往来は頻繁をきわめた。

※10 伴庄右衛門（二代）（1630〜1690）資次。八幡の商人。息子の資伊（三代伴庄右衛門）とともに北村季吟に学ぶ。のちに分家筋からの養子で五代伴庄右衛門となったのが、文筆家として知られる伴蒿蹊（資芳）。

るかを確認することが今後の課題ですね。この受領書は、次に出てくる新玉津嶋神社所蔵の資料の一つです。これらは以前は京都大学に寄託されていたのですが、季吟の地元という意向で当館に移していただいたものです。

新玉津嶋神社社司を経て初代歌学方として江戸へ

万葉拾穂抄 季吟文庫蔵

季吟は、万葉集本文の底本に、藤原俊成・定家をルーツとする公家、冷泉家に生まれた儒者の藤原惺窩による校本を用いた。その縁から、「冷泉亭人」（冷泉為経とされる）が序を書いている。



季吟は、天和3年（1683）、60歳の時に新玉津嶋神社の社司となります。

齊藤 この頃の資料にあたる「新玉津嶋神社文書」という季吟関連資料はかなりの量なのですが、それを寄託いただいています。同神社は、鎌倉時代の歌人として名高い藤原俊成が和歌浦（和歌山県）にある玉津嶋神社に祀られている衣通郎姫という和歌の神様を京都に遷して勧請したことに始まります。ですから、「新」がついています。

季吟が新玉津嶋神社にいたのは6年間なのですが、とても重要な時期で、季吟は、ここでより一層研究に打ち込んでいます。『万葉拾穂抄』という『万葉集』の注釈書の執筆を進め、元禄2年（1689）に5代將軍の徳川綱吉に献上しました。

同年の12月に幕府に召し抱えられる旨の通知が届いたので、季吟は湖春とともに江戸に向かいました。江戸では、幕府の歌学方に就任します。これは職名で、和歌に関する書物の研究や將軍家などに和歌の詠み方などを指導することが仕事でした。

綱吉の側用人の柳沢吉保も和歌に熱心だったそうですね。

齊藤 儒学者の荻生徂徠なども召し抱えているので、和歌に限らず学問全般に対してだったのだと思います。江戸幕府の成立から100年ほどが経ち、時代も安定してきたので学問が奨励され、季吟のような文化人が活躍する場が出てきた時代だったわけですね。そこで季吟は、俳諧、和歌、古典などの江戸時代における土台をつくる立場の人物になりました。

柳沢吉保だけでなく、その正室も季吟の指導を受けていたとか。

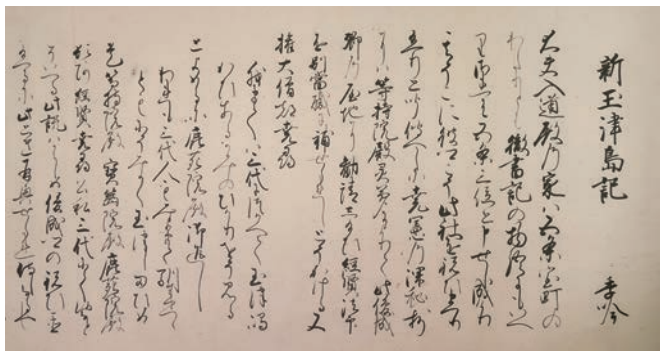
齊藤 柳沢吉保の正室、定子が季吟に和歌

※10 藤原俊成（1114～1204）平安時代後期から鎌倉時代初期の歌人。歌人・藤原定家（『新古今和歌集』の選者の一人）の父。

※11 柳沢吉保（1658～1714）譜代大名。綱吉の側用人として文治政策を推進。のちに大老格となり、甲斐15万石を領した。

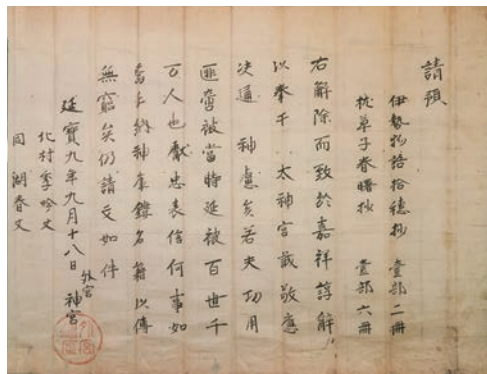
を学んでいます。こうした文化面に関しては妻や周辺の家臣も学ぶという例が見られます。元禄10年（1697）には息子の湖春の方が50歳で先に亡くなってしまいましたが、19歳になっていた孫の湖元が歌学方を継いで2代目となり、以降も北村家が代々歌学方を世襲していき、明治維新を迎えます。

季吟は息子に先立たれたながらも、82歳まで生きて、当時としては長寿をまっとうしました。



新玉津島記 新玉津嶋神社蔵（野洲市歴史民俗博物館寄託）

神社の由来などを記した季吟自筆の卷子本。末尾で自身が天和3年（1683）5月29日に万葉集の注釈本を書き終えたことを記している。



図書奉献請文 新玉津嶋神社蔵（野洲市歴史民俗博物館寄託）

季吟が自著を伊勢外宮に奉納した時の受取書。

北村季吟による古典注釈書

書名	刊行年	対象となった古典
『やまとものがたりしょう 大和物語抄』	承応2年 (1653)	『大和物語』 平安時代中期の歌物語。作者不詳。170編余りの恋愛や伝説を主題とした説話を収録。
『ときにつきしょう 土佐日記抄』	寛文元年 (1661)	『土佐日記』 平安時代中期の旅日記。紀貫之作。任地の土佐を船出して都に帰るまでの出来事を、仮名書きで記したもの。
『いせ しゅうすいしょう 伊勢物語 拾穂抄』	寛文3年 (1663)	『伊勢物語』 平安時代時代の歌物語。作者不詳。在原業平と思われる男の一生を恋愛を中心として描く。
『つれづれくさもんだんしょう 徒然草文段抄』	寛文7年 (1667)	『徒然草』 鎌倉時代の随筆。卜部兼好筆。無常観に基づく人生観が現れている。
『わかんろうえいしゅうちゅう 和漢朗詠集 註』	寛文10年 (1670)	『和漢朗詠集』 平安時代中期の詩歌集。藤原公任撰。朗詠(声高らかにうたうこと)に適した漢詩文と和歌を収録。
『まくらのそうし しゅんししょう 枕草子 春曙抄』	延宝2年 (1674)	『枕草子』 平安時代中期の随筆。清少納言作。作者の宮仕への体験などを日記・随想などの形で記す。
『げんじ こげつしょう 源氏物語 湖月抄』	延宝3年 (1675)	『源氏物語』 平安時代中期の物語。紫式部作。主人公光源氏の愛の遍歴と栄華、のちの苦悩を描く。
『ひやくにんいつしゅ 百人一首拾穂抄』	天和元年 (1681)	『百人一首』は『小倉百人一首』をさす。藤原定家撰。天智天皇から順徳院まで100人の和歌1首ずつを集める。
『はちだいしゅうしょう 八代集 抄』	天和2年 (1682)	『八代集』 古今和歌集以下、平安時代から鎌倉時代までの8つの勅撰和歌集の総称。
『まんよう 万葉拾穂抄』	貞享4年 (1687)	『万葉集』 奈良時代の歌集。現存する最古の歌集で万葉仮名を多く用いている。



湖月抄（源氏物語湖月抄） 野洲市歴史民俗博物館蔵

54巻に登場人物の系図や年立（主人公の年齢に沿った年表）などを加えた全60巻から成る。

画期的な注釈の様式を採用した『湖月抄』

—— ちょうど今年はNHKで大河ドラマ「光る君へ」を放送中なので、『源氏物語湖月抄』について紹介していただけますか。

齊藤 簡単に言えば、『源氏物語』の注釈書です。延宝元年（1673）に成立して、延宝3年に刊行され、江戸時代を通じてベストセラーになりました。古い文体のままだと江戸時代の人でも読めなくなっていたわけですが、一部の限られた人を除いて、難解な語句が多く、主語や目的語が省略されている文章をそのままで理解することは困難でした。

江戸時代以前のそれぞれの時代で一流知識人とされる人が注釈書をまとめたのですが、注釈と原本が別々に分かれていました。それを季吟は、上の段に頭注を置く、かつ原文の隣に傍注を入れるというスタイル

ルで一冊ですむようにしました。

頭注には、中世の源氏物語注釈書である四辻善成の『河海抄』、一条兼良の『花鳥余情』、三条西実隆が肖柏の説をまとめた『弄花抄』、同じく実隆の『細流抄』、三条西公条の『明星抄』、九条植通の『孟津抄』の説と、『源氏物語』に関する季吟の師であった箕形如庵と季吟自身の説を加えています。

—— それぞれの時代で公家を中心とした学者が『〇〇抄』を書いていたのですね。

齊藤 これらは一部の人々が原本や書写したものを秘蔵する形で伝わっていました。それを一冊に取りまとめ、どんな人でも読める印刷本の形で普及させたことが『湖月抄』の功績といわれています。

そして、頭注と傍注のスタイルは現在の出版社が出している古典文学全集などにも引き継がれています。当時としてはとても

- ※12 四辻善成（1326～1402）南北朝時代から室町時代前期にかけての公家・学者・歌人。
- ※13 一条兼良（1402～1481）室町時代中期の公家・学者。博学多才で、歴史・有職故実・文学に通じた。
- ※14 三条西実隆（1455～1537）室町時代後期の公家・歌人。連歌師の宗祇から古今伝授を受け、古典の普及に努めた。
- ※15 肖柏（1443～1527）姓は牡丹花。室町時代中期の連歌師・歌人。
- ※16 三条西公条（1487～1563）三条西実隆の次男で、歌人・和学者。
- ※17 九条植通（1507～1594）室町時代後期から安土桃山時代にかけての公家・古典学者。三条西実隆が母方の祖父にあたる。
- ※18 箕形如庵（生没年未詳）江戸時代前期の国学者。源氏書を相伝して北村季吟に伝授したとされる。

斬新なアイデアだっただろうと思います。

正確には、『湖月抄』成立の年に頭注を用いた『首書源氏物語』が「一竿斎（本名不明）」編で刊行されていますが、注釈が簡略で、『湖月抄』ほど普及しませんでした。

撮影用に出していた『湖月抄』の現物があります。

齊藤「桐壺の巻」の冒頭（表紙写真参照）を例に説明してみます。右ページに大きく「桐壺」とあって、この巻の名前の由来、「源氏の君誕生より十二歳の事まで」というように書かれている時期、それから内容の概略が1ページの間にまとめられています。

次の左ページからが本文で、最初の「いづれの御時にか」という言葉に対して、上段の頭注で、「伊勢の家集（伊勢の歌集『伊勢集』）」の最初で、「いづれの御時にか有けんおほみやす所（御息所）」と聞ゆる御局に……と書かれていることに基づくとしています。説明の最初に右寄りで「師」とあるのは、季吟の師・箕形如庵の説だということを示しています。

過去作のこれこれを引いたという指摘ですね。

地元の顕彰活動で句碑や銅像を建立

季吟について、地元では早くから顕彰活動がなされていたそうです。

齊藤 まず大正9年（1920）に野洲郡役所が「国学大家北村季吟」という立派な本を発行しました。この際に北村家や木村家、新玉津嶋神社などへの資料調査が行われたそうです。

戦後は、昭和30年（1955）3月に「北村季吟顕彰会」が発足しました。この時は、同年4月に野洲町が誕生する直前で、合併前の祇王村村長だった山本喜一氏が初代会長に就任しました。同年5月15日に顕彰会

齊藤 歴史学が専門の私などは不得意ですが、国文学の研究者の方は、こうした出典や、この歌はこの歌が基だといったことがすぐにわかるそうなのです。

季吟以後も「源氏物語」研究は盛んで、江戸時代後期の国学者、本居宣長は『源氏物語玉の小櫛』で「もののあはれ」という概念を打ち出すようになります。宣長は季吟の注釈に対してはどちらかというと批判的でしたが、同書で「今の世にあまねく用ふるは湖月抄なり」と書き、その使い勝手のよさは称賛しています。

近代以降もさまざまな文化人に重宝されて、学生時代の川端康成も戦時中に『湖月抄』を読んでいて、のちの作品に『源氏物語』の影響がみられるようになったそうです。そのように季吟は、『源氏物語』が1000年以上の長きにわたって読み継がれるきっかけをつくった人であるとも言ってもよいと思います。

ただ、明治以降は、与謝野晶子や谷崎潤一郎などが『湖月抄』などをもとに現代語訳したものを出すようになり、原文を読む読者は減っていきました。

と野洲町の共催で二百五十回忌法要が営まれ、北にある句碑の除幕式も行われました。句碑の碑文は松尾芭蕉の墓がある義仲寺（大津市）の無名庵庵主で著名な俳人だった寺崎方堂氏の筆によるものです。本当の季吟の命日は6月15日なのですが、当時は農繁期だったので、1か月繰り上げたのだそうです。

翌年の昭和31年には、地元の山添文彌氏（野洲町教育委員）、寺井秀七郎氏（祇王小学校校長、のち野洲町史編さん委員長）といった郷土史家でもあった方々が中心に

※19 伊勢（872ころ〜938）平安時代前期の歌人。三十六歌仙の一人。宇多天皇の女御・藤原温子に仕えた女房。



「季吟句碑」（北自治会館前）
「季吟銅像」（野洲文化ホール）



なつて祇王小学校の応接室に「季吟文庫」が仮設されました。昭和37年（1962）には校庭に「季吟記念図書館」が建てられ、館内に「季吟文庫」が設けられました。昭和58年（1983）には野洲文化ホール前に「北村季吟像」が建立されています。

当館でも野洲町立歴史民俗資料館だった平成7年（1995）秋に町制40周年記念の企画展として北村季吟を取り上げ、野洲町と中主町が合併して野洲市が誕生した翌年の平成17年（2005）春にも季吟没後300年を記念して企画展を開催しました。地元での顕彰活動も継続中で、11月に記念碑の除幕式などが行われる予定です。

「本日はお忙しいところ興味深いお話をありがとうございました。」

『聴導犬ポッキー いつもいっしょ』

作 いがらしけいこさん／絵 さかいゆきよさん

著者プロフィール

五十嵐恵子 2歳の時に失聴。2007年びわこみみの里に支援員として勤務、2010年に1歳の聴導犬訓練犬ポッキーに出会い、一緒に訓練を受け2018年合格。2024年8月高齢のポッキーに代わり聴導犬パルムとともに、支援員や聴導犬啓発活動を行っている。

酒井幸代 デザイナーの父の影響で幼い頃から絵を描き始め、学生時代にデッサンやグラフィックデザインを学ぶ。中学生の時にろう者と手話に出会い、2003年手話通訳士の資格取得。手話通訳の仕事とともに、手話関連の本やグッズのイラストを担当。

— 五十嵐さんからお問い合わせがあつて、2年後の2023年秋に「原稿進んでいますか?」とおうかがいしたら、なんと「ポッキー絵本プロジェクトチーム」を結成されていたんですね。

五十嵐 酒井さんと手話通訳者の五十嵐芳子さん、びわこみみの里の中村正さんとのチームです。絵本はポッキーが現役中に仕上げたいと願っていました。

「盲導犬」は多くの方々がご存知ですが、「聴導犬」は日本で50頭ほどしかないため、街でも見かけることがあまりないからでしょう。うか、よく知られておらず、現在も啓発活動が続いています。

酒井 絵本を通して、聴覚障害者のことや聴導犬のことを一人でも多くの人に知ってもらいたいです。

— 原稿入稿後も、細かい部分まで議論を重ね、絵の描き直しなど大変でした。

酒井 これまでにイラストは描いていましたが、絵本は初めてでした。ポッキーちゃんの頑張っている姿やかわいらしさが読む人たちに伝わることを願って描きました。

五十嵐 実在する聴導犬ポッキーの訓練の様子や仕事ぶりがリアルに再現され、カラフルで親しみやすく、小さい子どもたちから大人まで多くの方々に好評いただいています。

— 2025年2月には栗東市立図書館で、絵本の原画展と講演会もあるとか。

五十嵐 絵本に掲載された愛らしい酒井さんの原画だけでなく、残念ながらお蔵入りになった絵も展示します。ぜひ楽しんでご覧ください。

できればと思います。

今回の絵本には、これまで頑張ってくれたポッキーへの恩返し
の気持ちも込めました。この絵本を通して、たくさんの方々に、聴導犬を含む障害者補助犬のことを知っていただけるよう、また聴覚障がいへのご理解も含め、より良い社会に変わっていきけるようお願いを込めています。

五十嵐さんとパルム（右）
酒井さんとポッキー（左）



耳の聞こえない人に音を知らせてくれるポッキーの絵本。2200円(税込)

■関連行事

「野口謙蔵素描展」

開催中～ 10月20日(日)

会場：東近江市蒲生図書館

(東近江市子市川原町676 蒲生支所内)

野口謙蔵のスケッチや本の挿絵など知られざる作品を展示します。

休館日：月曜日・火曜日、10月16日(水)

お問い合わせ先：TEL 0748 (55) 5701

■関連講座「東近江学」第3回

「野口謙蔵とその周辺人物」

—多様な交友関係からみる謙蔵の人物像—

11月9日(土) 13:30～15:00

会場：てんびんの里文化学習センター

(東近江市五個荘竜田町)

講師：田中 浩 氏 (がもう夢工房理事)

参加料：500円(資料代) 定員：50人

お申し込み方法：下記にて電話受付、先着順

平日 東近江市博物館構想推進課 TEL 0748 (24) 5574

休日 近江商人博物館 TEL 0748 (48) 7101

秋期企画展

北村季吟

—芭蕉の師・生誕400年記念—

10月12日(土)～11月24日(日)

野洲市歴史民俗博物館

北村季吟木像
個人蔵 1 軀
博物館寄託

野洲郡北村を故郷とする北村季吟は、江戸時代の俳人・歌人で、松尾芭蕉も教えを受けました。また、『源氏物語』の注釈書を著した国文学者としても知られています。

ゆかりの資料から江戸時代の大学者、北村季吟を紹介します。

入館料：大人300円、高大生150円、小中生100円

休館日：月曜日(祝日の場合は開館し、翌平日休館)

お問い合わせ先：TEL 077 (587) 4410

内屈指の志村ふくみコレクションを所蔵する当館では、この記念の年に作家の辿った歩みを振り返る個展を開催します。

志村ふくみ《夕顔》
滋賀県立美術館蔵
2003年

入館料：一般1200円、高大生800円、小中生600円

休館日：月曜日(祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

■学芸員によるギャラリートーク

11月4日(月・振休) 11:00～11:45

14:00～14:45

場所：展示室3 参加料：要観覧料

定員：各回20人程度 事前申込不要／当日先着

お問い合わせ先：TEL 077 (543) 2111

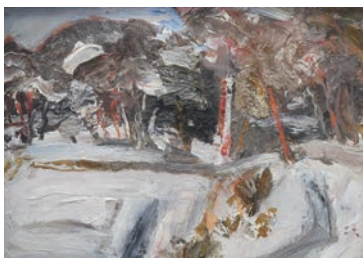
企画展

生を写す

—中路融人と野口謙蔵—

開催中～ 12月1日(日)

東近江市近江商人博物館・中路融人記念館

野口謙蔵《雪後》
館蔵

中路融人と野口謙蔵。どちらも東近江市にゆかりがあり、身近な風景を愛し描いた画家です。二人の共通点をひもとき、残された作品を紹介します。

入館料：大人300円、小中学生150円

休館日：月曜日(祝日は開館し、火・水曜休館)、

祝日の翌日

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 7101

栗東町制施行70周年記念展

栗東のかたち

—明治と昭和の大合併—

開催中～ 11月4日(月・振休)

栗東歴史民俗博物館



栗東中学校で催された栗東町発足記念運動会館蔵

昭和29年(1954)、4つの村が合併して誕生した栗東町は、昭和38年(1963)の名神高速道路栗東インターチェンジの設置を画期として、急激な発展を遂げていきました。

“栗東”というまちの輪郭が形成された明治と昭和の大合併を中心に、まちの成り立ちやあゆみを紹介します。

入館料：無料

休館日：月曜日(祝日・振替休日は開館)、10月15日(火)

■展示解説会

10月14日(祝)、11月3日(祝) 14:00～

参加料：無料 申込不要

■歴史文化財講座

「栗太郡の歴史と文化—街道文化を中心に—」

10月26日(土) 14:00～15:30

講師：八杉 淳 氏(草津市歴史文化活用調整員)

会場：栗東歴史民俗博物館 研修室

受講料：無料 定員：80人(要事前申込、先着順)

お申し込み方法：栗東歴史民俗博物館にお電話(下記)もしくは直接窓口でお申し込みください。

お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

滋賀県立美術館開館40周年記念

生誕100年記念

人間国宝 志村ふくみ展

色と言葉のつむぎおり

開催中～ 11月17日(日)

滋賀県立美術館

近江八幡市出身の染織家であり、重要無形文化財「絁織」の保持者でもある志村ふくみは、2024年に生誕100年を迎えます。国

満州「鞍山・七嶺子村」回想列車

手島清美 編

A 5判並製本 総224頁 非売品

問合先 京都市山科区竹鼻ノノ街道町91-606(編者)

『少年の眼に映った満州』(サンライズ出版、2015年)の著者が、同様の経験をした読者から寄せられた体験記や友人・知人からの感想をまとめて一冊に。(2024.5.10刊)



我が人生に悔いなし

中村泰雄80歳の「あしあと」

中村泰雄 著

A 5判並製本 総112頁 非売品

問合先 彦根市高宮町2572-2 (著者)

昭和40年代に脱サラして友人たちと立ち上げたベンチャー企業の苦難と成功、リタイヤして以降の妻との海外旅行の思い出などを綴る。(2024.7.2刊)

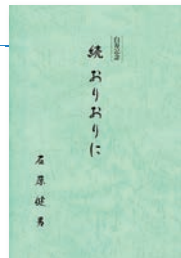
続 おりに

石原健男 著

A 4判並製本 総200頁 非売品

問合先 彦根市芹川町942 (著者)

還暦の時にまとめた随筆集『おりに』の続編。小・中学校教員、校長時代の出来事、教育関係や退職後の日々で生まれた思いを綴った随筆集。白寿記念に刊行。(2024.9.1刊)



遺稿集 菊池光治の諸国漫遊

菊池光治 著

A 5判上製本 総100頁 非売品

問合先 長浜市相撲町1642-8(菊池由子)

リタイヤ後に趣味の古典や芸能の知識をもとに『近江漫遊』『続 近江漫遊』を執筆した著者が遺した、エジプトと中央ヨーロッパを夫婦で旅行した際の紀行文。(2024.6.30刊)



道徳科の指導の充実を願って

若手職員・管理職の先生へ

一ノ宮賢了 著

A 5判並製本 総114頁 非売品

問合先 米原市中多良372 (著者)

長年、中学校で道徳教育にたずさわってきた著者が、主題の設定から授業の展開までの実践例をまとめた論文集。(2024.9.1刊)

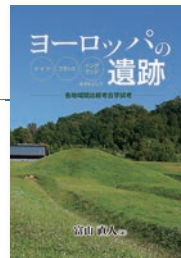
ヨーロッパの遺跡

ドイツ・フランス・イングランドを中心として
各地域間比較考古学試考

富山直人 著

A 5判並製本 総362頁 非売品

考古学者である著者が訪れたヨーロッパの遺跡についてまとめた。若い世代が海外の遺跡を簡易に学べるよう、現地に持参できるガイドブックでもある。(2024年9.1刊)



第27回日本自費出版文化賞に入選！

幸田 進 著『薩長と最後まで戦った男
―越後長岡藩家老・河井継之助―』

第27回日本自費出版文化賞(日本グラフィックサービス工業会主催、NPO法人日本自費出版ネットワーク主管)の最終選考が2024年9月5日(木)に行われ、大賞には、金武湾闘争史編集刊行委員会(沖縄県那覇市)の『海と大地と共同の力 反CTS金武湾闘争史』が選出されました。部門賞7点、特別賞(協賛各社賞など)7点も選出されました。第27回の表彰式は、2024年11月9日(土)に東京都・千代田区のアルカディア市ヶ谷で開かれます。

サンライズ出版制作の応募作品では、〈小説〉部門で幸田進著『薩長と最後まで戦った男』が入選しました。



好評
発売中

サンライズ出版 イベント情報

駅伝カフェ・バル&マルシェ in ガチャフェス 2024

@フジテック前駅・鳥居本駅

10月19日(土)

近江鉄道100円乗り放題 DAY「ガチャフェス」で、2つの駅をつないだイベント開催！

フジテック前駅 11:00～21:00

カフェ・バル/マルシェ/音楽ステージ

鳥居本駅 11:00～17:00

カフェ・バル
「鳥居本の面影」展
ほか



本の日記念イベント

「私の一冊！」

「あなたへの一冊！！」

「湖北の一冊！！」

11月1日(金)～12月2日(日)

10:00～17:00

会場：文泉堂(長浜市大宮町) 火曜定休

トークイベント

11月1日(金) 18:00～20:00

「地方出版から世界へ未来へ繋ぐ」(仮題)
地元の自費出版物の展示を行います。
トークイベントに小社社長が登壇予定です。



琵琶湖の魚類図鑑

藤岡康弘・川瀬成吾・田畑諒一 編
B 5判並製本 総232頁 4400円(税込)

琵琶湖周辺にすむ魚類85種と主な貝類と甲殻類各10種の生態と見分け方、さらに琵琶湖の成り立ちや漁法・食文化などについて、研究者31名が最新研究成果も盛り込んで解説した待望の本格的図鑑。

もはや堪忍なり難く 大塩平八郎の乱

竹中敬明 著

四六判並製本 総224頁 2420円(税込)

天保年間、相次ぐ飢饉の中、大坂でも奉行所の無策と商人の横暴により餓死者が続出した。元東町奉行所与力の大塩平八郎と彼を取り巻く者たちの葛藤、生きざまを描く歴史小説。



詩集 風のいろ

あだちリリー 著

B 6判並製本 総92頁 1320円(税込)

近江詩人会の水沢郁代表が「いつも生命の底にある『わたし』を影絵のように見つめる眼がある」と帯文で評する新鋭、待望の第一詩集。



有明の月 ガラシャの双刀

乙訓戦国つつじ 在原 叶 著

四六判並製本 総260頁 2200円(税込)

アマゾン・楽天ブックスなどPODで発売中

時は戦国。明智光秀の娘、細川忠興の妻として数奇な運命をたどった玉子(ガラシャ)と、二人の忠臣、河北無世と小笠原少斎の物語。



表紙写真 湖月抄(源氏物語湖月抄) 野洲市歴史民俗博物館蔵

編集後記 北村季吟が就任した歌学方にあたるものを、3代徳川家光の時には公家の烏丸光弘が務めていました。本来公家が担っていた文芸や芸芸が武士や豪商・豪農にも普及しており、今回の特集記事に出てくる人物に注釈を入れるため経歴を調べていておもしろかったのは、近江八幡の商人、伴庄右衛門の歴代のうち、登場しない四代庄右衛門(資章)。蹴鞠が好きで、屋敷内に競技用の設備を整え、家職とする飛鳥井家から免許も受けたそう。⊕



近江の戦国城郭

中井 均 著

A 5判並製本 総144頁 2200円(税込)

甲賀郡中惣の城館群、戦国大名の巨大な山城、境目の城、陣城、近世城郭の始祖・安土城から近世の彦根城、膳所城まで、日本城郭史や戦国史研究にとって重要な城づくりを紹介。

喜雨来 一

野口謙蔵日記 昭和13～14年

野口謙蔵 著／東近江市博物館構想推進課 編
四六判並製本 総422頁 2420円(税込)

東京美術学校卒業後は郷里の滋賀県蒲生郡桜川村(現・東近江市)に戻り、作品制作に取り組んだ画家・野口謙蔵が、亡くなる昭和19年まで綴った日記のうち、13・14年分を収録。



木炭車の時代

土佐・須崎の青春

しまんとひろし 著

四六判並製本 総140頁 1980円(税込)

1940年ごろから1950年まで日本物流の末端を支えた薪炭燃料車。高知県須崎市(当時は須崎町)において戦後すぐ木炭車で日本酒を運んだ人物視点で当時を振り返る小説。



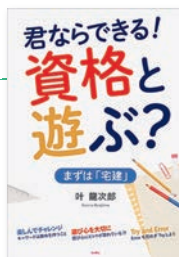
君ならできる！ 資格とあそぶ？

まずは「宅建」

叶 龍次郎 著

A 5判並製本 総106頁 2200円(税込)

難関国家資格「宅建(宅地建物取引士)」をはじめ、土地家屋調査士、2級ボイラー技士などの資格を取得した著者が、それぞれの資格取得にまつわる準備や勉強法などを伝授。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先